

特集

ここは見逃すな！ 症候からアプローチする 母体合併症

企画者のことば

桑原慶充*

妊産婦の主訴の背景には、病的意義の少ない生理的变化から、生命にかかわる重篤な疾患の予兆まで、様々な可能性が潜んでいます。周産期固有の産科合併症と偶発的な母体合併症はしばしば類似した症候を示すことから、診断に苦慮する場合があります。また、母児救命に向けて急性期治療を要するものから、問診・理学的所見・臨床経過などから経時的に診断を詰めてゆくものまで様々なケースが混在し、柔軟な対応が求められます。

近年、広く活用されている産婦人科診療ガイドラインは、周産期診療のレベルをボトムアップする強力なツールといえますが、一連のCQを使いこなして妊産婦の安全向上に資するに

は、症候より疾患を想起し、正しい初期対応につなげる実践的なセンスが求められます。こうした臨床能力は、体系的な成書や座学からは習得しにくいため、日頃より横断的な視点を持ち、症例経験を通じて培ってゆくことが肝要です。

そこで本特集では、妊産婦に比較的良好に認められる症候を中心に、“見逃してはならない”鑑別診断とその管理について、エキスパートの先生方に、実践的なフローチャートや図表を交えてご執筆いただきました。本特集号を通じて、症候という切り口であらためて母体合併症を整理し、明日への診療にお役立ていただければ幸甚です。

*Y. Kuwabara 日本医科大学産婦人科